

七百遠忌報恩身延教師結集大会宣言

私たち日蓮宗教師は、十月二・三日の二日間、宗祖棲神の地身延山に集い、七百遠忌御報恩の志を祖廟に捧げ、報恩のための教化活動に取り組む誓願を新にし、すでに十年を積み重ねた教化研究の実績に立って、更にその拡大強化と活動の組織的推進をめざして、第十二回中央教化研究会議身延教師結集大会を開きました。

日蓮聖人第七百遠忌を二年後にひかえ、現在、宗門をあげてその報恩奉行に邁進していますが、宗門の現状を省るとき、行事の奉行、事業の遂行もさることながら、報恩の実践とは、現代社会に立正安国の祖意を生かすことであり、その目標に向って、教化中心の伝道宗門としての実動体制づくりをすることこそ、最も緊急な報恩の課題であります。

私たちはこの観点に立ち、「七百遠忌報恩と伝道教団づくりをめざして——報恩の教師結集から同信同行同学の教化実践へ——」の統一テーマのもとに、①「寺檀問題と教化活動」②「子弟教育と法器養成」③「現代の家族関係と幼児青少年教化」④「日蓮聖人の報恩精神と七百遠忌」⑤「日蓮宗の現状と教化活動の組織化」⑥「現代社会の諸問題と教化」の六分科会に分かれて研究討議を重ね、次のことを一致して確認し合いました。

現代の世界は、核兵器による人類滅亡の危機、大工業生産による環境汚染、環境破壊の危機、高度工業社会における人間疎外の危機、エネルギー、食糧の危機等に直面しております。これらの危機は人類の邪智謗法によって引き起されたものであり、私たちは、日蓮聖人の報恩・誓願の御生涯にならって、立正安国の諫暁をこの現代危機の社会に加えねばなりません。常寂光土顕現をめざして、立正平和の旗をかかげ、世界平和実現のための実践をめざします。

その立正安国の使命を檀信徒ともども自覚するために、寺院のあり方を反省し、寺院を伝道の拠点として、護法運動・統一信行を中心に強力な教化活動をめざします。とりわけ次代を担う青少年教化に力をそそぎ、志を継ぐべき子弟の教育を徹底することをめざします。

これらの教化活動の推進のためには、教化研究会議をはじめとする教師の相互研修の充実が必要であり、教化センターを核とする教化活動の組織化によって、七百遠忌以後における「教師の自覚に基く教化本位の伝道教団」づくりを実現することをめざします。

私たちは、これらの目標と課題に応えてゆくために、具体的な努力目標を次のように明らかにし、設定しました。

- 一、檀信徒教化の事例体験を交流し合い、「檀信徒教化の手引」を作成するとともに、寺院を地域に活きる求道教化の道場として護持活用していこう。

- 一、信仰的で自覚的な法の担い手を育成するため、一貫した僧風教育のカリキュラムを作成実施し、僧侶再教育の制度を整備するとともに人材活用場の設け、地域における子弟教育を充実していこう。特に相互研鑽の場として、唱題修行と法華経・御遺文習学の集いを、各地で自主的に開いていこう。

- 一、家庭における信仰の在り方を指導し、幼児青少年の教化を具体化して、仏の子の自覚をうえつけてゆくため、幼児青少年向きテキストを作成活用し、修養道場・林間学校・子供会等を積極的に開いていこう。

- 一、報恩・誓願・諫暁・立正安国を肝要とする日蓮聖人の教えを現代に弘め、現代における「日蓮一門」づくりをめざし、さらに七百年に及ぶ日蓮宗の歴史と伝統を継承してきた六老僧以来の先師報恩の教化研究に努め、先師顕彰の活動に取組んでいこう。

- 一、日蓮聖人の教えの現代的把握をめざし、その成果を宗門全体に反映させ活用していくために現代宗教研究所の編集・発行する「現代宗教研究」「研究時報」等の研究教化誌の一層の充実と、全教師配布を要請していこう。

- 一、「報恩奉行」としての七百遠忌を一層推進し、報恩のための教化を目標として、遠忌特別布教の活発化と地方大会の開催に努力し、さらにその成果を中央大会に反映させて、七百遠忌以降の日蓮宗の伝道教団と

しての信仰的組織体制を築く第一歩としよう。

- 一、日蓮宗青年会の行う全国縦断唱題行脚を、日蓮聖人の教えを伝え、地域の人々が苦悩する諸問題をとりあげつつ、立正安国を社会的に弘めていく唱題行脚として共感し、可能な限り支援協力し実践していこう。
 - 一、教化研究会議をさらに充実発展させ、教化に関する教師の連帯および資料教材の交流作成をはかり、中央と十務務区の教化研究会議の開催をつみ重ねつつ、さらに管区・県単位の教化研究会議を開いていこう。
 - 一、現代宗教研究所および教研会議との密接な関連のもとで「中央教化センター」の設置を期するとともに、地域独自の多様な教化の展開をめざし、宗務区管区単位に「地域教化センター」を設け実動させていこう。
 - 一、現場の教師による教化体験を交流し、直面する教化上の問題を解決するため、「分野別教化担当部会」を設け、教師一人ひとりが特定の教化分野に所属し参画して、教化活動を高めていこう。
 - 一、立正安国の祖願を現代に活かし、世界立正平和運動の成果を継承発展させて、核兵器禁止・被爆者援護をはじめとする諸活動にとりくもう。人類絶滅の危機を救い、生命をふみにじる社会の現実をただすため「立正安国の教えと核廃絶の理念」を究め、宗内外にひろめ、国連に立正平和の意志を反映させよう。
- 以上、宗祖の御廟前において宣言します。

昭和五十四年十月三日

第十二回 中央教化研究会議

七百遠忌報恩身延教師結集大会